

はじめに

本書は 2002 年度から 2008 年度の 7 年間にわたって、金沢大学で筆者が行った仏教学関係の講義への質問・回答集である。担当した科目は宗教学 B（仏教学）、仏教学特殊講義、仏教文化論である。このうち、宗教学 B は共通教育科目、残りのふたつは文学部での開講科目である。また、仏教学特殊講義はいずれの年度も前期・後期の両学期において開講した。それ以外は半期の科目である。

筆者が金沢大学に着任したのは 2001 年度であるが、初年度は講義を受講する学生が、授業の内容に関してどのような疑問や感想を持ったのか十分把握できなかった。そのため、2 年目となる 2002 年度から、授業に対するコメントを記入する用紙を毎回配布し、授業終了時まで記入して提出するという方法で、学生の反応を知るように努めた。これらのコメントに回答することは、当初は必ずしも考えていなかったが、重要と思われる質問やコメントに対して簡単な回答を翌週に配布したところ、受講生からはかなりの好評を博した。そして、それを続けたところ、回を追うごとに、授業の内容をさらに発展的に考察し、独自の見解を示す学生も現れるようになった。その結果、従来の授業に比べて、授業に主体的に関わろうとする学生の割合が飛躍的に増えたことを実感した。このことは、学期末に実施された学生によるアンケート評価においても明確にあらわれた。

現在、大学では教育の質の向上をめざして、FD 活動の名のもとにさまざまな試みが行われているが、筆者の行ってきたこの方式もその実践例のひとつである。それとともに、現在の大学生が仏教や宗教を主題とする授業に対して、どのような関心を持ち、いかなる疑問を発するかを示す具体的なデータにもなっている。ここに紹介した質問やコメントを見る限り、なじみの薄いこのような分野についても、大多数の学生がきわめて真摯に考察し、積極的に意見を述べていることがわかる。

本書に収められた質問・回答集は、すでに筆者の HP 上ですべて公開していたが、金沢大学の全学的な改組によって文学部が人文学類へと移行し、授業科目やカリキュラムも大きく変わるこの時期に、刊行物としてまとめておくことを企画した。インターネットに比べるとアクセスの点で劣るのは当然であるが、記録性、永続性を考えれば、紙媒体での公開もまったく無意味というわけではないと確信している。利便性を考え、引用文献と索引を補った。

本書の編集にあたっては金沢大学大学院修了生のマクロースキー芽衣子さんの協力を得た。心から御礼申し上げる次第である。

2010 年 3 月

森 雅秀